

編集後記

平成23年はあらゆることが、例年通りとはならない一年だったのではないのでしょうか。東日本大震災では、「まさか」の大地震と大津波、電気・石油などのインフラや物流の混乱、追い打ちをかけるかのようなタイでの洪水によるものづくり産業への影響、円高などに起因する貿易赤字国への変化など、未来の工業技術者を育成する我々が何をどのように生徒に伝え、何を目標に学ぶべきか改めて考える一年でした。「戦前」「戦後」という言葉のように、「震災前」「震災後」と使われる大きな歴史的な転換期にいるのかもしれませんが。また、危機的状況下においては想定内の規則やルール、マニュアルだけでなく、事象に対する判断や行動の瞬発力が問われているような気がしてなりません。

エネルギー問題では今までの原発のあり方について活発な議論がされていますが、原発問題と風力発電や太陽光発電などをはじめとする自然エネルギーのあり方については分けて議論する必要がありそうですし、工学的な見地からメリット、デメリットを正しく知る必要があります。さらには、放射能由来の風評被害などは「安全=安心」ではないことと共に、悲観的予想や憶測が事実置き換わっていく社会的な空気を日々感じる事が多くありますが、工業教育に携わる者として事実を正しく認識しながらも転換期に生きる私たちが悲観的なことだけでなく明るい未来を語り、希望に燃える高校生を育てていきたいものです。

平成23年度工業部会事務局